

～リニア中央新幹線山梨県駅位置の検証結果について～

1. 大津町地内への駅位置決定に至る経過（再確認）

平成23年11月の「リニア中央新幹線建設促進山梨県期成同盟会」（構成：山梨県、県議会、市町村、市町村議会、各種経済団体等）において、山梨県駅の位置を大津町地内とすることを、JR東海への要望として決定した際の資料について、再確認を行った。

評価視点	評価の概要	
	大津町地内	小井川駅付近
① 用地確保の容易さ	人家がない平坦な農地で用地確保が容易	市街化が進んでいる地域で人家の移転が必要など
② 基盤整備コスト	約100億円（人家が少なく主に農地など）	約200億円（人家の移転や環状道路の側道の付替えが必要など。）
③ 主要拠点へのアクセス（道路交通）	甲府・韮崎・塩山・大月駅や富士ビクターセンターへのアクセスに優れている。	身延駅へのアクセスに優れている。
④ 交通結節機能	中央道、環状道路に近接し、県下全域に短時間で移動できるなど	小井川駅に近接。ただし駅までの移動手段の用意が必要
⑤ 3圏域の意見（中北以外）	中央道やR137号等による富士山へのアクセスに配慮すべきとの記述があり、中央道スマートICが近い大津町地内が優れているなど。	—
総合評価	総合的に比較検討した結果、大津町地内の評価が高い。	

※前提条件

- ・ 駅位置について、大津町地内は、現在計画中の位置を、小井川駅付近は、小井川駅における身延線との一体化は200軒から300軒の人家移転が必要のため困難であることから、およそ500メートル東側に離れた比較的広い用地を想定
- ・ 駅周辺用地として必要な面積を12ヘクタールと仮定し、リニア新駅設置に最低限必要な基盤整備コストを算出

注) 当時の評価は、小井川駅周辺地域を「A地域」、大津周辺地域を「B地域」として評価していたが、ここでは、「A地域」を「小井川駅付近」とし、「B地域」を「大津町地内」と表記する。

2. 環境条件などの検証結果

2. 1 観光・アクセス性について

リニア駅から県内観光地5圏域毎の主要な鉄道駅までの所要時間について、移動手段毎に計算するとともに、県内居住者等の現状の交通手段からリニア駅へのアクセスの手段を考察する。

(1) 評価における前提条件の整理

リニア駅から各地域へのアクセス性の評価に当り、条件を次のとおりに整理する。

(1) - 1 リニア駅

リニア駅から目的地への条件は表1のとおりとする。

表1

目的地	大津町地内	小井川駅付近
甲府駅	【所要時間】約20分 ・バス利用 ・大津町地内～甲府駅	【所要時間】約20～38分 ・徒歩+鉄道利用 ・小井川駅付近～小井川駅～甲府駅
小井川駅	【所要時間】約7分 ・タクシー利用 ・大津町地内～小井川駅	【所要時間】約7分 ・徒歩 ・小井川駅付近～小井川駅
条件	・大津町地内～甲府駅の所要時間は最短時間 ・小井川駅～甲府駅の所要時間について > 最短時間は、将来小井川駅に特急が停車することも想定 (最短：特急想定時間 最長：普通最長時間) ・鉄道・バスとも待ち時間は考慮しない	

(1) - 2 道路の整備の完成状況

- ・(仮称) 甲府中央スマートIC
- ・中部横断自動車道(双葉JCT～新清水JCT間)
- ・新山梨環状道路東部区間((仮称) 西下条IC～(仮称) 広瀬IC間)
- ・国道358号遠光寺交差点改良

(2) 各地域へのアクセス手段と所要時間

表2 主たる移動手段が鉄道の場合(特急利用も想定)

圏域 (入込客数)	目的地 主要駅	大津町地内	小井川駅付近
峡中 (5,721,589)	甲府駅	—	【所要時間】約20～38分 【経路】 条件のとおり
峡東 (6,172,513)	石和温泉駅	【所要時間】約25分 【経路】 駅～甲府駅～目的地	【所要時間】約25～43分 【経路】 駅～小井川駅～甲府駅～目的地
峡南 (2,433,297)	身延駅	【所要時間】約47～69分 【経路】 駅～小井川駅～目的地	【所要時間】約47～69分 【経路】 駅～小井川駅～目的地
峡北 (4,864,961)	清里駅	【所要時間】約68分 【経路】 駅～甲府駅～ 小淵沢駅～目的地	【所要時間】約68～86分 【経路】 駅～小井川駅～甲府駅～ 小淵沢駅～目的地
富士・東部 (18,495,368)	富士山駅	【所要時間】約88分 【経路】 駅～甲府駅～大月駅～目的地	【所要時間】約88～106分 【経路】 駅～小井川駅～甲府駅～ 大月駅～目的地

表3 主たる移動手段がバスの場合(高速道路利用も想定)

圏域 (入込客数)	目的地 主要駅	大津町地内	小井川駅付近
峡中 (5,721,589)	甲府駅	【所要時間】約20分 【経路】 条件のとおり	—
峡東 (6,172,513)	石和温泉駅	【所要時間】約16分 【経路】 駅～新環状～目的地	【所要時間】約22分 【経路】 駅～新環状～目的地
峡南 (2,433,297)	身延駅	【所要時間】約38分 【経路】 駅～新環状～ 中部横断道～目的地	【所要時間】約35分 【経路】 駅～新環状～ 中部横断道～目的地
峡北 (4,864,961)	清里駅	【所要時間】約49分 【経路】 駅～中央道～目的地	【所要時間】約54分 【経路】 駅～新環状～中部横断道～ 中央道～目的地
富士・東部 (18,495,368)	富士山駅	【所要時間】約49分 【経路】 駅～中央道～目的地	【所要時間】約56分 【経路】 駅～新環状～中央道～目的地

(入込客数：平成30年山梨県観光入込客統計調査結果参照)

(3) 県内居住者等の交通手段の検討

県内居住者等の現状の交通手段からリニア駅へのアクセス手段を考察する。

(3) - 1 県内移動手段の状況

県内の通勤通学時の移動手段は、表4のとおり自動車が多くなっていることから、リニア駅への移動手段についても、自動車利用が多く見込まれる。

表4 通勤通学時の移動手段

	鉄道	バス	自動車	自動二輪	自転車	徒歩	その他
山梨県	7%	3%	69%	4%	9%	7%	1%
全国	23%	8%	44%	4%	15%	6%	1%

山梨県自転車活用推進計画（平成22年 国勢調査）

(3) - 2 隣県地域の移動手段の状況

リニア山梨県駅は、県内からの利用者のみならず長野県諏訪地域からの利用者も見込まれる。諏訪地域の方が県外への移動する場合の手段は、表5のとおり、乗用車やバスが多くなっている。

表5 代表交通機関別 居住地－旅行先（県外）

居住地	航空	鉄道	幹線旅客船	幹線バス	乗用車等
長野諏訪・伊那	2.7%	13.9%	0	18.2%	65.2%

国土交通省全国幹線旅客純流動調査（2015）

(4) 評価

評価概要	<p>① 観光地への所要時間は、表2、表3のとおり概ね同等の結果であったが、県内主要観光地は鉄道駅周辺に限らないため、将来の公共バス路線の整備状況によっては、観光地に直接アクセスできる可能性がある。</p> <p>② また、県内居住者等のリニア山梨県駅へのアクセスの手段についても、やはり自動車の利用が多く見込まれることから、スマートインターチェンジに近い大津町に優位性があり、利用者の利便性向上に繋がる。</p>
結果	<ul style="list-style-type: none"> 上記の理由から「観光・アクセス性」の観点では、「大津町地内」の優位性が高いと判断できる。 また、大津町地内については、JR身延線の小井川駅や東花輪駅へのアクセスとして、シャトルバス等の専用公共交通を整備することにより、利用者の利便性が更に向上し、優位性もより高まる。

2. 2 企業誘致について

東京圏・名古屋圏等からの企業移転の受け皿となる可能性を秘めた「集団農地」について、用地規模と拠点性等の視点から評価を行った。

評価概要	<p>① 「大津町地内」及び「小井川駅付近」ともに、産業誘致に適した広大な集団農地が周辺に複数あり、その他用地の規模等などについては同等といえる。</p> <p>② 「大津町地内」には「アイメッセ山梨」、「公益財団法人やまなし産業支援機構」、「山梨県産業技術センター」、「山梨県総合理工学研究機構」などの産業支援施設や研究機関があり、近隣エリアには、甲府南部工業団地や国母工業団地、山梨県機械金属工業団地などに先端技術等を有する企業が集積している。また、海外の国に多くの事務所を有する日本貿易振興機構（ジェトロ）の山梨貿易情報センターも立地していることから、企業のバックアップ体制が整っているエリアといえる。</p> <p>③ 「大津町地内」は、中央道の（仮称）甲府中央 SIC が整備されることなどにより、広域交流拠点となる。したがって、生産機能や物流機能の確保に適したエリアとして拠点性が高く、企業誘致に適したエリアといえる。</p> <p>④ 民間団体の調査によると、新幹線駅周辺への進出が期待できる企業として、研究開発や企画設計の分野があげられている。これら分野の移転を希望する企業にとって、「大津町地内」は、周辺工業団地内企業と駅周辺に集積する同種企業との連携体制の構築は大きな魅力となる。</p>
結果	上記理由により、「企業誘致」の視点では、「大津町地内」の優位性が高いと判断できる。

2. 3 移住について

リニア駅近郊エリアへの居住に必要な用地の有無や、移住者が求める移住先としての評価を行った。

評価概要	<p>① 移住先を「リニア駅近郊」とした場合、「宅地開発可能地の規模及び条件」は、「大津町地内」及び「小井川駅付近」とも同じである。しかしながら、「大津町地内」は、その周辺に高規格道路ネットワークが形成されることから、自動車利用者にとっての利便性は高い。一方、「小井川駅付近」は、その周辺に大規模店舗や、「山梨大学附属病院」「身延線駅」が立地し、生活環境が優れている場所として、「市街地居住」に適している。</p> <p>② 移住先の選定は、移住者の個人的な思考によるところが大きく、また、個人の価値観が基準となることから、優位性についての優劣は、「大津町地内」、「小井川駅付近」両方とも断定することができないと考えられる。</p>
結果	上記の理由から「移住」の視点では、両地域ともに同等であると判断できる。

3. 総合評価

検証を行った3つの分野のうち、「観光」及び「企業誘致」の視点では、「大津町地内」の優位性が高く、「移住」視点では、ともにほぼ同等であることが確認でき、以下のとおりの評価結果となった。

比較分野		候補地	
		大津町地内	小井川駅付近
1	観光・アクセス性	○	△
2	企業誘致	○	△
3	移住	○	○

総合評価	総合的に「大津町地内」の優位性が高く、駅位置として適地であると判断できる。
------	---------------------------------------